全体質疑

JRバス8社が集うバスユースフォーラムを

前原　真也（中バス地本）

●今年のバスフォーラムは、北海道から九州まで参加していただいた。今後は全国のJRバス8社が集うバスユースフォーラムとしたい。

本部青女は私たちの手本

渡邉　聡明（神戸地本）

●JR東労組で組合員大量脱退が発生した。動員がなくなり、組合費を払わなくて良い。メリットが沢山あるそうである。

春闘では、JR東労組がほとんど交渉がないにも関わらず、ベア1,000円を獲得した。これでは、組合に加入する必要性を感じないのではないか。

青女役員は、献身的に活動し、苦労や負担感も感じている。だからこそ、弱い者の気持ちを理解できる。弱い者にみんなで寄り添うのが労働組合だ。本部青女は、いつも私たち青女委員会の手本だった。これからも民主的で、求心力ある活動を展開していただきたい。

組合活動＝政治活動という意識

沖畠　裕章（岡山地本）

●本部行事の学習会では、資料を地本にも共有していただきたい。

●分会青女では、日頃動員がないのに、選挙のときには声がかかるため、組合活動イコール政治という意識がある。今回の定期委員会では、議員団の先生から話を聞くことができ、すごくためになった。

●基本組織は、青女の意義を理解してくれているのか疑問である。分会執行部から青女活動を断られることがある。

●昨年、栗東から草津間で感電事故があり、NESCOでは若手が大量に離職した。今年は安土構内でも感電事故が発生した。工事量が多いにも関わらず、上司のフォローがない状況で、メンタル不調も発生している。

熱中症対策は全系統に

中川　雄貴（大阪地本）

●近年はみどりの窓口を減らして遠隔化が進んでいるが、機械化がお客様に理解されてから、要員を減らしていただきたい。

●乗務員詰所にはウォーターサーバが設置されるが、駅には配置されない。熱中症対策は全系統に平等に行われるべきである。

●日根野支所の新在家派出の、エリア手当が3%は差別である。

駅務採用の再評価をお願いする

中嶌　優太（神戸地本）

●現在は、駅から車掌を経て運転士となるが、NS研修を受験するしか他の道にいくことができない。現在はNS研修の合格率が低くなってきており、今後の人事運用の在り方についてどう考えているのか。

また、駅務採用は重要な仕事を任されている。乗務員採用より、給料は高くても良いのではないか。賃金昇進制度の見直しでは、誰もが夢と希望の持てる制度としていただきたい。

選挙動員の説明に苦慮

古賀　友也（本社・総支部）

●今年は、選挙の支援が多かったが、動員者への説明に苦慮した。まずは政治との関わりを伝えることが大切だと感じた。来年度のユーススタディで取り上げていただきたい。

性別・系統に関係なく制度や設備の充実を

土川　将人（大阪地本）

●女性活躍推進法が施行され、採用者も増えているが、女性専用の寝室がない。工務系統でも大部屋で椅子を並べて仮眠という状態である。性別・系統に関係なくキャリアを積めるように、制度や設備を整えていただきたい。

JR東労組の足音が聞える

三宅　孝幸（岡山地本）

●京都地本で未加入者が出たのは、JR東労組の影響だと感じている。実際に岡山でも、加入を躊躇う姿も見ているが、本部は、この状況をどのように受け止めているのか。

●JR東日本の大量の未加入者問題は、JR連合が音頭を取り、JR西労組も積極的に取り組んでいくべきである。

台風19号でもボランティアを

堀越　一輝（広島地本）

●30歳以下の組合員が基本組織の執行委員になっているが、青女活動で学んでから次のステップに行く必要がある。

●昨年は広島に大きな被害が出たが、ボランティアやカンパ活動を行っていただき感謝している。今年の台風19号でも、ボランティアを行ってはいかがか。

●JR西日本硬式野球部について、10月29日に日本選手権がある。応援をお願いしたい。

付け焼き刃の女性施設に危惧

上窪　輝（西バス地本）

●梅津営業所では、副所長が乗務することで点呼が受けられない。休日出勤も月に4、5回と、常態化している。

採用情報では女性設備完備となっているが、実際は配属されて、更衣室などを設けて対応している。国会議員団会議などを通じて訴えていただきたい。

●執行部の中間答弁

会社も労働組合を必要としている

新倉委員長

◆総合職の組合参画について、労働協約では勤務時間中に組合活動を行ってはならないと明記されているが、青女では本部の定期委員会だけが組休を認められている。会社が重要な会議と位置付けているからである。労働組合が、会社にとっても必要なものだと言い換えることもできる。

今日も多くの委員から意見が出された。これは、まだまだ改善の余地がある会社だということであるとともに、JR西労組に言えば、変えることができるという期待でもある。

率直に伝えることが一番

鶴石事務長

◆新入社員一人ひとりと真摯に向き合うことで全員加入に至ったと感じている。改めて感謝申し上げる。困っている声を届けるのが私たちの役割だと考えている。

◆不幸な組合員を出さないためにも、他労組のビラを受け取らない方が良いと考える。

◆ユーススピリットの8ヶ月に及ぶ準備に感謝したい。

◆青女担当を基本組織に設けるという提言は、今後議論しながら判断したい。

◆若い社員の離職について、辞めたいと深刻に悩む前に相談に乗っていただきたい。

◆ユーススタディは、福岡地本と意思疎通を図っていきたい。

◆台風19号について、情報発信を求めていきたい。ボランティアも検討を進めていく。

◆LGBTについて、会社も勉強をしているところである。

◆バスフォーラムについて、JR総連の東北と関東バスには声をかけていないが、検討を進めていきたい。

◆指令所組合員との意見交換会は、12月の検討会では議題にあげたい。

◆ユーススタディに参加して良かったという声を沢山聞いている。

◆購入券の増配布を求めていきたい。

◆動員の割り振りは、基本組織と話し合って対応していただきたい。

◆青女行事の併設は、素晴らしい企画で、引き続き検討いただきたい。

◆2つの泊り行事を廃止して、日帰り活動にシフトした。

◆ユーススタディの実行委員会開催が一度で済んだのは、大阪地本が事前に準備・企画していただいたおかげである。今後も、実行委員の負担軽減を考えていく。

◆新規採用者の加入行動について、みなさんがJR西労組に入って良かったと感じていることを、率直に伝えることが一番だと思う。

◆JR東労組の大量脱退は、どのタイミングで労働組合の必要性を訴えていくのか見極めながら取り組んでいきたい。

◆政治と労働組合の関わりを理解できていないと、負担感に繋がるのは認識している。

事業者では変えられない法律を、国会議員なら変えることもできる。

◆本部の組織として、30歳までは青女でと指導している。

◆運輸の人事運用について、前広に情報発信をしていく。

縦割りの会社であるからこそ横の繋がりを

大鍋副委員長

◆本部資料の共有について、各地本・総支部毎に専用のUSBもお渡ししている。

◆「祈りの杜」には、会社としても、安全考動研修で行くことになっている。当然、労働組合としても取り組んでいきたい。

◆労災が頻発している状況下で、会社も様々な施策を打ち立てている。「確認ですが」もその一つである。

◆労働組合として、パワハラをどうチェックするのか、どう世話役活動をしていくのかが大切である。縦割りの会社であるからこそ、横の繋がりを大切にしていただきたい。

青女活動の目的を共有することで、負担感は減り、達成感を感じる

北村副委員長

◆コールセンターは、JR西日本交通サービスというグループ会社に委託しているが、駅で実際に切符を売っていた方が対応している。12月のJR西日本連合の定期総会で、質疑していただきたい。

◆ウォーターサーバを各箇所に配備されるように声を挙げていきたい。

◆レクや学習会の目的を共有して理解することで、負担感は減り、達成感を感じることができる。

風土・土壌を整えるためには

白壁副執行委員長

◆組合役員は色んな悩みがあるが、それを上回る魅力があると思う。支え合える仲間がいる。組織を良くしていくのは自分達だと誇りを持って頑張っていただきたい。

◆新入社員721名の方にJR西労組に加入していただいたことに感謝をしたい。組合に入ってもらわなければ助けてあげることもできない。

◆青女の年齢引き上げより、いかに全員が関われる運動にしていくのか検討いただきたい。それが青女の力でもあり、JR西労組の力になっていく。

◆LGBTについて、少数派でも声を聞くことができるのがJR西労組。職場の環境など風土の問題もあるので、土壌を整えるには労使で議論を積まなければならない。

◆総合職の組合参画について、将来、管理職になるならば、労働組合の知識や人を巻き込む力は必要になる。まず、総合職に一緒にやろうと声をかけていただきたい。

◆青女活動の一定の見直しは必要だと考えている。今はランチミーティングや子連れで執行委員会に参加することもある。組織に合ったアイデアを出してみんなで頑張ってほしい。

骨太の議論に会社が応える姿勢を示す

川原業務部長

◆人間ドックについて、健康経営を唱う会社なので引き続き強く要請していきたい。

◆統括チームを作った背景は、駅運転のスペシャリストを養成することである。今後、ジョブローテーションをどうするのかなど、切り込んでいきたい。

◆2030年に現在180あるみどりの窓口が30になる。JR西労組としても特に重要な課題と認識している。

◆今後は、働き続けられる環境を包括的に考えなければならない。骨太の議論をやろうというJR西労組の提案に、会社が応える姿勢を示した。労働協約改定交渉で一番大きな成果である。

◆電気系統の社員は15年前と比べて約半数。そして工事の3分の2は計画通りに進んでいないことが印象に残っている。みなさんにも紹介しておく。

青年女性委員会の活動について

青女で一番大切なことは、多くの人が関われる機会を設け、多くの組合員に参加してもらい、「楽しかった、来てよかった」と感じていただくことである。本部は今後も地本・総支部の声を聞きながら楽しい行事を創っていきたい。柔軟な発想で仲間づくりに取り組んでいく。

サブスローガンにもあるように、JR西労組の必要性を感じてもらえる、そして魅力ある組織にできるようにこれまで以上に取り組んでいく。地本・総支部も「明るく・楽しく・元気よく！」をモットーに仲間づくりを進めていただきたい。

私は、入社当時は人見知りで人間関係にも戸惑うこともあったが、JR西労組の先輩方に助けられてきた。困っている人に寄り添えるのがJR西労組の良い部分だと思う。

地本・総支部に足を運び一人でも多くの組合員にJR西労組に入って良かったと実感していただける活動を先頭に立って実践してくことを誓う。

困っている人に寄り添う組織

鶴石事務長　総括答弁

安全について

私の出身の米子地本で、2006年1月24日に発生した伯備線触車事故で、3名の命が奪われてしまった。一緒に働く仲間を失う悲しみを先輩から聞いてきたが、そんな不幸なことは経験しなくて良いと強く感じている。今一度確認してほしい、職場に不安全な箇所がないか、守りにくいルールはないか、ルールを破っている人がいないのか。事故があってからでは遅い。安全感度を高めて自らの命、仲間の命を守れるように取り組んでいこう。

以前、新倉委員長が「優しさとは、不安全行動をとっている仲間を見逃すことではなく注意することだ。注意することは勇気がいることだが、後悔しないためにも勇気を持とう」と言っていたことが印象に残っている。みなさんにも紹介しておく。

青年女性委員会の活動について

青女で一番大切なことは、多くの人が関われる機会を設け、多くの組合員に参加してもらい、「楽しかった、来てよかった」と感じていただくことである。本部は今後も地本・総支部の声を聞きながら楽しい行事を創っていきたい。柔軟な発想で仲間づくりに取り組んでいく。

サブスローガンにもあるように、JR西労組の必要性を感じてもらえる、そして魅力ある組織にできるようにこれまで以上に取り組んでいく。地本・総支部も「明るく・楽しく・元気よく！」をモットーに仲間づくりを進めていただきたい。

私は、入社当時は人見知りで人間関係にも戸惑うこともあったが、JR西労組の先輩方に助けられてきた。困っている人に寄り添えるのがJR西労組の良い部分だと思う。

地本・総支部に足を運び一人でも多くの組合員にJR西労組に入って良かったと実感していただける活動を先頭に立って実践してくことを誓う。

メインスローガン

「創　造」　形式にとらわれず新しい活動を創ろう！

「参　加」　労働組合はみんなのものだからみんなで参加しよう！

「実　践」　言うだけでは何も変わらない言ったからには実践しよう！

サブスローガン

◆JR西労組の必要性を再認識し、みんなの安全と働きやすい職場環境を築き上げよう！

◆明るく・楽しく・元気良く！共に支え合う仲間の輪を広げよう！

◆一人一役・全員主役！全員参加でJR西労組運動を継承しよう！